

GreenThumb

自然と心のキャッチボール

特集:公園に行こう! / 秋田県立小泉瀧公園・日本庭園水心苑・天王グリーンランド
グリーンマネジメント / 「お米ができるまで」を学ぼう! 出戸小学校&旭川幼稚園田植え体験
心のビタミン◎暮らしの中のクラフト展 / 造形作家 佐藤たず子
I ♥ Garden / 小林 緑のガーデンデザイン

2006年5月
新緑号
Vol.8

「お米ができるまで」を学ぼう！

泥んこ遊びではありません！5月の青空の下、出戸小学校のみんなど旭川幼稚園の子供たちが、田植えを体験しました。「お米ができるまで」を学んでもらおうと、むつみの社内プロジェクト、グリーンマネジメントの一環として去年から開催しています。

出戸小学校の田植え体験

5月26日、出戸小学校の2年生から5年生の児童約230名が、グリーンサムガーデン隣の大きな田んぼに稲の苗を植えました。初めて田植えをする児童がほとんどで、泥に足を取られ転んでしまっお友達がいっぱい！泥んこになりながらも、小さな手で一生懸命に田植えをしていました。担当した三浦さんは「子供達が楽しんで何よりです。植え直しが大変ですけどね(笑)」と笑顔です。すくすくと成長して、無事に収穫の秋を迎えられたらいいですね！稲刈りが待ち遠しいですね！



最初は足を取られて歩けなかった子供たちも、だんだん上手になって、「植えた稲の上を歩かないで〜！」と引率の先生が叫んでいましたが…ムリみたいです(笑)



これがお米になるの？



今年も三浦さんが「お米の先生」になりました！



親子で田植えをしよう！

5月27日は、旭川幼稚園の園児と保護者の20組が参加して、田植えを行いました。「親子で田植えをしよう！」と希望者を募り、田植え体験をしました。2つの田んぼに、年少・年中組と年長さん組に分かれて、田植えスタート！園児はもちろん、その保護者の皆さんも田植え初体験の方が多く、小学校と同様に、泥んこになりながら苗を植えていました。自然に囲まれたグリーンサムガーデンで親子で貴重な体験をしてみようことができました。



旭川幼稚園の皆さんが植えた苗も、秋には稲刈り体験を開催予定です。お楽しみに！

暮らしの中のクラフト展

能代市 造形作家 佐藤たず子

陽だまりの中のクラフトたち

シンプルに 素直に 自分の感じるままに。 暮らしに溶け込むクラフト作品

自然素材の表情から様々なインスピレーションを与えてもらっているという造形作家の佐藤たず子さん。2006年4月、木の香りがふわりと漂う自宅リビングを開放して「暮らしの中のクラフト展」を開催した。たず子さんのやさしい雰囲気そのままの、ナチュラルで繊細な作品が数多く並ぶ。「風にふかれて」「春を迎えに」「和らいて」などの作品名にも春のあたたかさが感じられる。

自然に囲まれたこの家は「陽だまり色」で統一されている。キッチンの大きな窓からは白神山地を望み、ときどき通る五能線の電車も景色の一部となっている。午後になるとリビングからの日差しで陽だまり色がより濃くなる。展示会を自宅で開催したのは、大きな会場で展示するよりも、実際の



暮らしの中に溶け込む作品を見てほしいからだ。それは作品から楽しく暮らしのヒントをみつけて欲しいという、たず子さんの想いがある。自然素材そのままのカタチを楽しくデザインされた、決して華やかではない作品達。「シンプルに、素直に、自分の感じるままに」という、想いそのものが表現された、素朴な中にも凛とした美しさのある作品が誇らし気に並んでいた。



「無限に広がる自然素材の可能性～いろいろな表情を見つけることが、今楽しいと重宝されたオブジェ。」

「このブローチもかわいいでしょ!？」と笑む佐藤たず子さん。小さなその作品にも思いが込められて。



すべてが「木」でデザインされた自宅は、まさに陽だまり色。家族が早く帰りたいくなる家に。そして、友達が増えない家(笑)になったそう。



●プロフィール
佐藤たず子 tazuko sato
1990年自然素材を自分で探し創作するスタイルでリリース創りを始める。1998年能代にて初めての個展開催。1999年秋田市のアトリオンやAD、田沢湖芸術村、盛岡市のカワトク、喜城島の国営みちのく公園などで個展開催。レストラン、オフィスなどのディスプレイ、小学校の体験授業、イベントでの体験授業、他に注文に応じて空間に合わせた作品制作を手がけている。





Koizumigata Park

秋田県立

小泉潟公園

小泉潟公園は、「教育環境」「レクリエーション」「水辺保全」の大きく3つにゾーニングされ、男潟・女潟の水面を中心に自然の風致、景勝の保全と野外レクリエーションの場として利用されています。



自然を十分に楽しめる 小泉潟公園。

秋田市金足にある秋田県立小泉潟公園は、南北に広がる男潟と女潟(溼原植物群落の県文化財指定)を中心に、小高い丘陵地を組み合わせ、広大な自然を巧みに利用しながら整備されています。散策やレクリエーションの場としてたくさんの方々が訪れます。公園内は「教育環境」「レクリエーション」「水辺保全」の3つに分けられます。

教育環境ゾーンは、県立博物館や日本庭園の水心苑、菖蒲園、女潟があり、秋田県民の歴史と感性を実感できます。

レクリエーションゾーンは、芝生の多目的広場やグリーンスロープ、子供でいっぱい的大型遊具、噴水広場、野外ステージ、テニスコート、サイクリングロードと、自由に公園を楽しめる人気のゾーンです。

水辺保全ゾーンは、水辺広場と男潟があり、景色を見渡せる散策路や芝地、多目的広場が整備されています。釣りや水鳥の観察など、地元の人々の利用が高いエリアです。

むつみ造園は4月1日から、小泉潟公園の指定管理者になりました。指定管理者は、公共施設を国・県・市町村に代わって民間の管理運営力を導入することによって、コスト削減

と利用者のニーズに添った管理を行うものです。

秋田県の3つの都市公園(秋田中央公園/小泉潟公園/北欧の杜公園)に指定管理者制度が導入され、むつみ造園は多くの建設工事に関わってきた小泉潟公園に応募し、選任されました。造園の技術力と、皆さんとともに築いてきた信頼と、イベントの企画力・実行力が選ばれた大きな理由かもしれません。

これからの公園は？ 公園の可能性。

これからの公園は何を求められるのでしょうか？今は新しい公園をどんどんつくる時代ではありません。

せん。今ある公園をいかに利用し、活用していくかです。

公園は地域文化の発信地でもあります。公園には様々な資源や財産があり、様々な可能性を秘めています。子供達の楽しい遊び場であり、市民のリラクゼーションの場所です。そして地域の自然を保全する場所でもあり、地域住民の連携や学習、趣味の体験や発表の場でありたいと思います。

一人ひとりが公園の主人公。

私たち管理者は、公園をたくさんの方が利用して欲しいと願っているだけではありません。県民のニーズを管理者自らが創造し、プログラ

ムをつくり提供し、実践していかなくては意味がありません。もちろん公園の主人公である利用者一人ひとりに参加していただき、いろいろなアイデアと協力をいただく事が重要だと考えています。

今後、間違いなく公園の管理費用は更に少なくなりますが、費用に合わせた管理ではなく、今まで以上の管理体制を維持できるように最大限の努力をしたいと思います。

そして、少ない費用で効率よく管理を続けて、利用者のニーズに応えていきたいと思っています。指定管理者は「官」から「民」へ、「民」から市民へのコモンです。



ここには開放感ある景色が広がる
 散策コースもいろいろ
 遊び方もいろいろ
 澄んだ空気をいっぱい吸って
 自然とたわむれ楽しんだ分だけ
 そこにある『心満たされる瞬間』
 公園へ行こう！
 桜が咲き、ツツジが咲き
 ふじ欄が風に揺れ
 菖蒲の花が咲く
 花が、緑が、小鳥が語りかける
 仲良くしようよ
 心と自然のキャッチボール



秋田県立博物館



女湖



金農高生のインターンシップ 季節またぎ半年間 造園緑地科でスタート

造園緑地科でスタート

金足農業高校(津谷正俊校長、六百七十人)の造園緑地科が、十一月までの十七回にわたるインターンシップをスタートさせた。県内の高校では三日間程度のインターンシップがほとんどで、半年にわたるケースは珍しいという。

同科は、より実践的な専門技術を持ったスペシャリストを育成する目的で、秋田市金足の同校近くの県立小泉湧公園を管理するむつみ造園土木(本社・秋田市)と連携し、インターンシップを行う。二年生四十人が

八人ずつの五班に分かれ、毎回一班ずつが同公園で芝刈りや剪定、道具の使い方などを学ぶ。同校としても半年にわたるインターンシップは初めて。長澤公正教頭は「短期間だと体験できることは限られてしまう。特に造園は時季によつてさまざまな作業があるので、季節をまたいだ現場実習は有効だと思う」と話す。

一回目の実習には四十人全員が参加し、同公園で、むつみ造園土木の杉村文夫専務が日本庭園の構造や見方などを説明した。終了後、関恭平君は「長い実習の中で庭のさまざまな機能など、学びたいことは多い。また、実社会を経験することで、人間的にも成長したい」と話した。

杉村専務は「技術的なこととともに公園の専門的な見方も覚えて、公園をより身近に感じ、生活の中で楽しめるようになってほしい」と話した。

(秋田魁新聞掲載より)

むつみ造園のインターンシップのねらい 技能向上図り、心強さを養う

専攻と関連する企業と長期にわたってコミュニケーションをとりながら技術やプランニングを学ぶことで、造園や社会への理解がより深まるはず。実際に社会に出たときの心強さが違ってくる。短期だと仕事が大変な印象だけで終わってしまうこともあり、ある程度時間をかけてスキルアップも図りたい。道具の使い方や芝刈り、剪定など基本

作業のほか、11月には造園作業名物の雪つりも体験させたい。また、小泉湧公園の入口に設置された石碑の周辺も、30年が経ち、寂しい雰囲気になっている。玄関口にふさわしく元気を与え、立ち寄りたくなるような景観にするため、生徒からアイデアを出してもらい構想を立て、実行する予定。





上の池

日本庭園

水心苑

Suishinen

林泉廻遊式日本庭園で、池や滝、築山、赤松疎林、水芭蕉園、藤棚など散策をしながら四季折々の景観を楽しむことができます。

ゆつくりと散策できる
水心苑の魅力。
昭和54年4月に開園した水心苑は、秋田県では初めての本格的な林泉廻遊式日本庭園です。ゆつくりと散策が楽しめるように設計されており、皇太子・同妃殿下のお手植えの松や水芭蕉園、滝、眺望台など、時空の変換の中で変わりゆく庭を楽しむ事ができます。
足引きの 山田に落ちて 行水の心易くも 身はなりにけり
(石川理紀之助翁が詠まれた一首から「水心苑」と名付けられました)

毎年6月に咲く

花菖蒲をご覧ください。

田畑式に区画整理された菖蒲園は、毎年6月中旬にいつせいに花を咲かせます。その後、約1ヶ月咲き誇

るハナシヨウブをお楽しみいただけます。秋田の夏の風物詩ともなっているこの菖蒲園は、ゆつたりと200種類を超えるハナシヨウブをご覧いただけるように、園路や木橋なども整備しています。熟練の作業スタッフが丹誠込めて植え付けした、見事な花を是非ご覧ください。
楽しく集える公園をつくります。
私たちは、もっともっと多くの方にこの魅力あふれる小泉瀧公園に来ていただきたいと思っています。そのため、利用者が公園に何を求めているのか的確に把握し、そのニーズに敏速に 대응することにより、楽し



く集える公園をつくっていきます。今後も、サービス向上の取り組みと地域ボランティアとの連携、技術の資質向上など、効率的な管理運営に努めて参りますので、ぜひ小泉瀧公園に遊びに来てください。



水心苑に響くヴァイオリンコンサート
6月17日(土)
16:40~17:30
場所:小泉瀧公園「水心苑」
演奏:ヴァイオリン 広島交響楽団コンサートマスター 田野倉雅秋氏
ピアノ:津田智子氏
15:30~16:30
あなたの思いが本になる 自演プログラムを語る 講演/映画ダイヤモンド社 中田雅久氏

新緑輝く小泉瀧公園「水心苑」にて「極上の感動をあなたに」と題したイベントを開催します。美しい音色が響くヴァイオリンコンサートをはじめ、自費出版ブームの仕掛人が真相を語る講演会を開催します。本格的な日本庭園である「水心苑」にピアノを持ち込み、新緑の庭園とともにヴァイオリンの演奏をするというイベントは、これが初の試み。日本庭園と音楽の美しい融合がお楽しみいただけます。

※パークセンター内では、6月10日(土)~18日(日) 10:00~17:00「ナチュラルクラフト&陶芸展」を開催します。クラフト作家/佐藤たす子 陶芸作家/伊藤久美子

「美しく楽しい公園にします」



私たちが小泉瀧公園パークセンターのスタッフです。ご利用の際は、お気軽に声をかけてください。写真下段中央から時計まわりに/所長の金己樹雄、成田芽衣、奈良生八、山平和也、開亮、佐藤直子。

小泉瀧公園管理運営憲章

1. 私たちは、「公園の主人は利用者一人ひとりである」ことを基本とし、すべての人に豊かな時間と空間を提供します。
2. 私たちは、公園利用者が安全・安心で、心から楽しめる質の高い多様なサービスの提供に努めます。
3. 私たちは、公園の設置目的・理念を十分に理解し、利用促進への取組みと、管理技術の研鑽に努めます。
4. 私たちは、公園の利用者の交流の輪を拡げ、信頼と友愛の絆づくりに努めます。
5. 私たちは、公園の一木一草や他の生物に、私たちが生かされていることに感謝し、業務に励みます。



小泉瀧公園パークセンター

〒010-0124 秋田市金足嶋崎字後谷地21
TEL.018-873-5272
<http://www.koizumigatapark.jp>